

# 獨協医学会

会 長 稲 葉 憲 之 (獨協医科大学学長)

## 運営委員会委員

簀持 淳*	石光 俊彦**	秋山 一文	阿部 七郎	安西 尚彦
石井 芳樹	大類 方巳	桑島 成子	小島 勝	篠田 元扶
杉本 博之	鈴木 純恵	千種 雄一	中元 隆明	西山 緑
濱口 眞輔	春木 宏介	平林 秀樹	菱沼 昭	緑川由紀夫
宮本 智之	森田 公夫			

\*委員長 \*\*副委員長

## Dokkyo Journal of Medical Sciences 編集委員

石光 俊彦*	千種 雄一**	秋山 一文	阿部 七郎	安西 尚彦
石井 芳樹	小島 勝	篠田 元扶	中元 隆明	濱口 眞輔
菱沼 昭	森田 公夫			

\*委員長 \*\*副委員長

## 編集事務員

鯉沼 行子

## 編集後記

Dokkyo Journal of Medical Sciences/獨協医学会雑誌41巻第1号をお届けできることになりました。本号には原著18編(英文5編,和文13編),症例報告1編(英文1編)を掲載することができました。投稿戴きました先生方,査読・編集・発行に多大なご尽力いただいた皆様方に衷心より御礼申し上げます。

いずれも各講座・診療科・部門で日夜蓄積された知見が論文として結実しています。以下,概要を示します。眼科手術において全身麻酔が必要となった要因の解析(越谷病院眼科・武藤哲也先生),再生医療センター立ち上げでのCelution TM System活用状況の総括(大学病院再生医療センター・井上健一先生),睡眠時無呼吸症候群への影響として肥満と頭蓋顔面骨格異常による影響が独立要因であること(口腔外科学・成川公貴先生),大学病院勤務看護師に対する歯科健康に関する横断的アンケート調査(公衆衛生学の齊藤伸枝先生),心肺バイパス周手術期において短時間作用型 $\beta$ 遮断薬ランデオロールとカテコールアミンの併用が頻拍制御に有効であったこと(麻酔科学・濱口眞輔先生),持続性心房細動の症例にカテーテルアブレーションを行った後の再発しやすい予測因子の抽出(越谷病院・循環器内科・林亜紀子先生),Prader-Willi症候群患者ではインスリン負荷後のコルチゾール分泌パターンは遅延傾向にあること(越谷病院小児科・白石昌久先生),乳児期に発達遅延を欠く特発性後天性小頭症の児の半数近くに知的障害と注意欠陥・多動性障害を合併する傾向があること(越谷病院小児科・喜多俊二先生),

正常妊婦に比べ妊娠高血圧症候群の妊婦では母体血および臍帯血の血清中に含まれるM-CSと $\beta$ -NGFは有意に高値であること(越谷病院産婦人科・林雅綾先生),A型ボツリヌス毒素が神経障害性疼痛のマウス坐骨神経結紮モデルで痛み回避行動を減少させ脊髄興奮性シナプスの増強を抑制すること(麻酔科学・根本興兵先生),インスリン抵抗性を改善させることが冠動脈ステント術後の再狭窄の予防につながること(内科学(心臓・血管)・東明宏先生),成犬における腕神経叢ブロックを作製し,交感神経遮断による正中動脈血流増加作用を確認したこと(麻酔科学・藤岡照久先生),プロポフォルとレミフェンタニルによる全静脈麻酔では手術終了時のレミフェンタニルの持続投与量は精神運動機能に影響することは少ないこと(麻酔科学・矢崎美和先生),感染性心内膜炎発症には口腔内の連鎖球菌とブドウ球菌が重要である(口腔外科学・博多研文先生),肺高血圧症患者において2D心エコー図によるRV Tei indexは心プールシンチグラフィによる右室駆出率を予測し得る指標になること(内科学(心臓・血管)・萩野幸伴先生),舌扁平上皮癌でもKPNA2発現はリンパ節転移の予測因子となること(口腔外科学・増山裕信先生),舌扁平上皮癌においてセンチネルリンパ節生検は有用でありOSNA法による遺伝子解析はその診断精度を高めること(口腔外科学・和久井崇大先生),セラミック人工膝関節の動作解析(越谷病院整形外科・増田陽子先生),乳房拡大術後の炎症性偽腫瘍の症例(越谷病院乳腺センター・石綱一央先生)。(秋山一文)

2014年3月20日印刷

第41巻 第1号

2014年3月25日発行

編集発行人

獨協医学会

稲 葉 憲 之

発行所

獨協医学会

製 作

教 文 堂

〒321-0293 栃木県下都賀郡壬生町北小林880番地  
獨協医科大学  
Tel (0282) 86-1111 (内線2009)

〒162-0804 東京都新宿区中里町27  
Tel (03) 3260-6136